愛珠

想い出ずるままに（十一）

中村道子

一、進駐軍兵士の来園及び疎開荷物の分類

小春日和の暖かいある日、一人の米兵がはいって来て、キャンデーのはいっている大きい袋を、私に渡しながら幼児を指差して、皆にあげてほしいと手真似でいうから、私も笑いながら手真似で辞退したが、ぜひというので、幼児にこの意味を話して、保育室にはいってから、「皆に分けてあげますわ」というと、子どもらもにこにこ笑いながら、「ありがとう」というと、兵士もにっこり笑って嬉しそうに帰って行った。

多分故郷にいる幼い弟妹を偲んでいたことであろう。幼児たちは憶する気配もなく、昔呉汝綸がここへ視察に来た時、一幼児が自己の手技を、無雑作に手渡したのと、同じ自然の気持であった。遠くすべり台の所で遊んでいた幼児たちも、兵士の姿を見つけて走って来た子どもたちも、皆保育室にはいってから、兵士の気持を話して、キャンデーを分け与えると、三十人程の在籍児だったから二個ずつ与えられ、残った三個を三人のおじさんたちにあげることを話し合って、幼児に持って行ってもらった。そしてこの時「歩きながら往来で食べたり、しゃがんだりしないようにしましょう」と注意した。

職員数が増加してからは、私は宿直をしないでもよいようになったから、日曜日や祭日が晴天であれば、午前中は衣類の洗濯や整理をし、昼食後は直ぐ幼稚園へ出勤して、疎開物の分類整理に追われていた。殊に古文献の調査には気を使って忙しく過ごしたのである。実際この時分の私はとても忙しくて、しかしそれを苦

しいとも思わず、日曜日や祭日は全く無く、来る日も来る日も幼稚園へ出勤した。これは園長として、自分の義務で当然であって、誰にでも分かるように、片づけて置くことを信条としていたからである。

私は古文献を調査しながら、驚いたりまた感心したりして、良い勉強ができたと、心中喜んでいた。沿革史もあらためて熟読すると、創設当初の人たちが真剣で誠実であって、設立を見るまでは各自の立場立場の担当に、尽瘁していることに心から感激して、私自身もこの轍を踏まねばならぬと、改めて決心したのである。

私が日直をしていたある日曜日、この日は摂養室で調べていたが、それは関信三先生が文部省の依頼によって、幼稚園創設法を創案せられ、一般が使用すべきものではなかったが、その頃大阪模範幼稚園から、東京女子師範学校へ依託せられていた保母希望の留学生即ち木村末女氏が、関先生に懇願してこれを複写させていただき、でき上がると念のために、先生の検閲を仰いだらしく、誤点の無い証明ともいえる、完末における添書にご自分の氏名を誌して魂を附けられていることであった。その時何より敬服したことは、自己の著書に対する責任感の強いことであった。

その後模範幼稚園が廃園となって、備品全部が公売に附せられた時、愛珠創設委員は、その時の図書全部を購入して、参考室に保管し、保母の研究に供されていたものであることが分かって、その頃得られるだけの知識を得んと、蒐集せられたことは慧眼といわねばならぬと思った。愛珠にこうした逸品が多くある理由も創設当時の人たちがすぐれた判断によって、区内幼年児の啓発を願う一心から起こったことであろう。

――ずっと以前から私が不審に思っていたことは、幼稚園を創設するに当たって、委員が不審な点を一々東京女子師範学校に尋ねても、ご指導はいつも第二代の小西信八監事先生であって、関先生の名が沿革史を捜しても見当たらなかったので今日までの長い間そのことばかり思っていたが、昨年（昭和四十三年）八月号の「幼児の教育」誌に、津守真先生によって、関信三先生のことが詳細に記述せられていて、それによると明治十二年十一月四日に亡くなられたことも分かったので、愛珠の開園が十三年六月一日であったから、この時には、既にご他界になっていたので、沿革史にお名の無いわけが分かり、遺書によってご教示を受け、あらためて感謝したのである。そして私は安心した――

錆のある落ち着いた美しい庭に目をやり、関先生の編集になる幼稚園記を考えていた時、久しく聴かなかったピアノの音が流れて来た。誰だろう？暫く聴いていたが、音は強く響きまた弱く流れて、指の運びも慣れていて確かである。今時分誰だろうと不審

に思って、沓脱から遊園の方へ少し出ると、遊戯室の隅に置いてある古い方のピアノの前に腰掛けて、進駐軍の若い兵士が弾いているから二度喫驚!!、ピアノは室の向こうの隅だったから、私は遊園の方から静かにはいって、室の中央あたりに行った時、人の気配に気が付いたのか、先方はチラッと見たので、ちょっと会釈して反対の隅の空いている入口から、小使室の方へ行ったが、誰もいなかったから、今度は遊戯室を通らずに、真直ぐ前の廊下を廻って遊園に出て摂養室に帰った。ピアノは未だ聞こえている。室に帰ってから仕事を続けようと思ったが、どうしても出来なかった。他のことを案じていたからである。暫くして音が止んだので遠くから遊戯室の中を見ると、人影はもう見えないから、確かめるつもりで廊下から小使室を抜けて、宿直室にいた秋田さんに尋ねると、少し前に門を出たとの返事あったので、今後の注意を頼んで、この日は私も家へ帰った。

ピアノの供出の例を幾つも聞いたし、区内の人で「ここにグランドピアノが二台あっても、供出をいわれても出さんと置いとくなあれや、後から買うた分は、私ら五、六人で寄附したのやさかい頼みまっせ」といって、笑いながら帰って行かれたことがずっと前にあったから、自分は注意していたが、こんなことがあって兵士があのように上手に弾くのだから、幼稚園に二台もあるのだから、欲しいといわないとも限らないと思案したが、「何卒来ないように」と心から祈らずにはおれなかった。

この翌々日倉庫の用事を四時に切り上げて、職員室へ帰って来た時、関田主席保母が、今日二時半頃遊戯室へ三人の年配の将官らしい米兵がはいって来て、何か話しながら室内の彼方此方を見廻し、真面目に話し合って、時々頷づいては「ベリーナイス」といって話していました。英語は私には分からなかったが、「ベリーナイス」ということだけは分かりましたと、笑いながら話されたので私は驚いて、ピアノ所か、家まで接収されてはと案じ自分のいうべき言を考えた。しかしその後何の話も無かったのでやれやれと安心した。

またの日、廊下を小走りに原田のおばさんが来て「また進駐軍が来ましたで!! 愛珠の子たちを四人連れて何かいいながらすべり台の方へ行きましたで」と知らせてくれたので、「男の子？女の子？」ときくと、「皆男の子です」と答える。その方を見ると、先日ピアノを弾いていた人より、少し年を取っていた。兵士はすべらないが、子どもらはワイワイいいながら何回もすべっている。上から誰も降りて来ない時には、憶する気配もなく逆に何度も登りかける。皆が楽しそうに笑っている。真からおもしろそうで、兵士も何かいいながら手真似と併わせて笑っている。

私は席を立って、そろそろ歩いてすべり台まで行き、そして会釈すると、先方も当方を見て「こんにちは」と笑いながらいったから、私も「こんにちはー」といった。自分にはそれ以上の挨拶はもうできない。子どもたちを見て笑っていると、彼はポケットから色彩のある小さい本を出して、種々尋ねるけれども、英語の素養のない悲しさで何もいえない。本を借りてよく見ると左側に英語で書かれ、右側に日本語がローマ字で書いてあった。それによって先方は将校であることが分かった。

日本語の横の英語を指すと先方にもよく分かったから、暫くして摂養室に腰を掛けて少し話し合った。その頃主席保母も来たので話は楽になった。それによると、はじめ、愛珠は私個人の所有と思って、良い幼稚園だとほめていたが、これは大阪市役所の物で、私は園舎を管理し、幼児に保育をするだけで、個人の物でないことをいうと、笑いながら貴女も私と同じで貧しいといったので、皆が笑った。自分は中佐でコロンビア大学を卒業し、今度陸軍にはいった者だといい、そして四人の幼児の中の一番小さい一人を指差して、私にはこの位の子どももいるといった。

連れられて来た幼児たちは、庭石を飛んだり、植え込みの間から「ぬうー」といって出て来たりして、暫く遊んでいたが「きょうはほんとに愉快だった。貴女に何か記念に上げたいが何がよろしいか」と尋ねるから、「それならこれを下さい」といって、先刻見せてもらった本を指差すと、「オーケー」といって嬉しそうに渡されたので、「サンキュー」と礼をいっていただいた。中佐は多分故郷に待っている家族などを偲び、殊に幼い子どもに思いを馳せたことであろう。帰りには玄関まで送って別れたが、それを見た近所の人の話では、「今頃来ている兵隊は、皆義勇軍ですと、そやからおとなしいそうでっせ」と、話し合っている。

また初夏の爽やかなある日、大阪市教育委員会の紹介にて、英国のジスモダンエージ映画社の監督カメラマンと、通訳の会社顧問森川氏が来園し、幼稚園における幼児の自由遊戯の、各種実態を三時間にわたり撮影し、「きょうほど愉快に撮影できたことは最近ない」とて、二人は非常に喜んで帰り去った。

一、戦後における各保育会の再現

太平洋戦争が苛烈になってからは、中止されてしまって、その開催を見なかったが、終戦後各園の体制が大体まとまると、大阪保育会が、先ず再生し、その発会式場に愛珠幼稚園が選ばれた。

何分戦時中で、園舎の家屋疎開や、空襲その他の種々な事情で、どことはなく傷み、殊に人手不足のために清掃が不行届であって多勢の人たちを迎えるには不体裁であるため、都合のつく幼稚園

から校務員一人ずつを提供され清掃することとなり、翌日には十七、八人の出席を見たので、早速皆で硝子戸や床を掃除してもらったから、会場として大層見安くなり、綺麗な遊戯室で安心して発会式を挙げることができた。また明治末期からの永い伝統を持つ、関西連合保育会も、間もなく再現し、前回の最終開催地であった名古屋保育会から、続いて最初の当番に当たる京都保育会は、岡崎公会堂を会場に選ばれて盛会であった。

そのように保育の研究や、保母の相互向上発展の交換機関ともいうべき、研究会が次々に息吹きはじめ、これらが統合されて、関西国公立幼稚園長会が生まれて、奈良女子高等師範学校の講堂で結成せられ、そうして、やがて、全国国公立幼稚園長会と大きく育ち、漸次研究範囲も広くなって、互に切磋琢磨し、常に研究向上を、忘れなかったのである。

終戦の翌年、まだ占領下にあった頃であった。大阪保育会の主催で、進駐軍衛生部隊の婦人士官から、〝米国人から見た日本人の子どもの実態と、米国における幼児の教育の状態〟を座談的に聴いたり、またこの翌年には同会の主催にて、文部省から来られたヘファナン女史の〝今後の幼稚園の在り方について〟の講演を共に来られた椚(くぬぎ)女史の通訳で聴くことが出来た。この日ヘファナン女史の希望で、この機会に、幼児が日本の純粋の服装をしている姿を見たいとのことであったから、今回の会場が愛珠であったので、幼稚園の近くに住居のある、国分広昭と藤岡明子の二人の保護者に依頼して服装と時間とをよく打ち合わせて、女史に見てもらうことができた。服装といっても段々あって、私にはよく分からなかったがお正月にお雑煮を祝う時の着物といって頼んだ。

「おお!! かわいい!!」といって女史は目を細くして笑い、会から送られた花束を、アンダーソン氏は広昭さんに、ヘファナン女史は明子ちゃんに与え、二人の写真をカラーで撮影するとて、庭に連れて行ってシャッターを切られた。二人は貰った花束を嬉しそうに見て、何か喜んで話していた。

保育会関係の、会の再生や統合と前後して、雑事に追われながら、愛珠幼稚園を希望しての団体や個人の参観者も迎えたから、忙しかった。これらの中には、昔私が教生の時、外部参観として来たように、女子師範学校常磐会幼稚園の教生三十人の参観や、府立市岡高女生の児童心理研究のための参観等、その他、他府県の視学や校長、個人あるいは団体での参観も受けたから、気を相当につかった。

一、愛珠PTA結成と他二題

従来は後援会が、いろいろな形で、幼稚園の教育事業や、施設

経営を援助して来て下さったが、占領下になってからは、漸次米国的に変わって来た。しかし、よく尋ねてみると、結局、形式や表現が多少変わったので、内容は、煎じ詰めると、大差はないように思えたから、全園児の保護者会を開いてよく話し合い、愛珠PTAを結成したのである。

この日全会員で四役を選挙したが、何分はじめてのことであるから、会員一同は間違いのないように、話し合って行くことにした。この結果、初代会長として、淡路町三丁目の高岡覚之助氏に、副会長には、最近西船場区内からも、幼児が相当多数来るから、江戸堀の岡部ためさんを選び、書記には、同じ東区内でも浪華幼稚園区内の三村親雄氏に、そして本園の堀尾静教諭が、会計に選ばれた。今後幼稚園を援助して下さる方々は、四氏共に円満な方々であるので誠に結構であった。

また新憲法が制定せられ、次いで実施されると、東区役所へ全職員で説明を聴くために出席したり、殊に私が一番気をつかったことは、教組の指令で準備ストにはいるとて一月二十八日から午前中にて保育を終わり、続いて二月一日には、スト決行のビラを、保護者に配布することになったことであった。しかしこの日までに解決したので、私は安心した。

その後全園児の保護者会を遊戯室にて開き、戦後における幼児の教育についての懇談をし、本園としての教育方針を、縷々座談的に話し合ったのである。

一、忘れ得ぬ七夕祭の趣向

七月の七夕祭も、三月の雛祭に匹敵する程、夏の想い出の楽しい遊びであった。

西六の小学校から、同じ幼稚園の主任保母として帰任した時、ちょうど七月六日の朝、各組に笹の小枝を分けながら、明日の七夕祭の飾り附けを、去年の通りにしてちょうだいやと、先生方に頼んだら、午後の保育がすむと直ぐ、準備にかかった。それを私も手伝いながら、手技の練習をしたのである。今朝分けた笹の小枝の、飾り附けは午前の保育で全部出来上がり、各自の保育室にあるうちわたてに刺して室を飾っていた。誠に綺麗であった。あのように飾るのかと思うと、子どもの時のことを想い出して嬉しかった。いよいよ遊戯室の飾り附けがはじまった。二間たらずの親笹二本に、幼児が作った紙細工を括り附けてそれを立てると、大層美しかった。大笹の形もよく、万遍無く飾りが附き、長い大きい二重の色の網や、笹に似合う大きい提燈とホオズキ等も着いている。二人の先生がざあっと音を立てて、親笹二本を遊戯室の正面に持って行き、一間半程の間隔を作って左右に立て、その間

に細い一本の緒を張って、それに先生等の考案せられた、模様のある牽牛と織女二星の上着や長襦袢、それへ帯も揃えて二組を全部通し、鵲の背に乗せられて、天の川を渡った時、濡らした着物を掛けて、乾しているのであって、この情景は中々味のある姿であった。

この正面の後には、大きい黒幕を張って夜空を現わし、これへ直径二寸位の郡星を、右側上から左側下へ流して、天の川の流れを現わし、川を挟んで上部には少し大きく牽牛星を、そして右下には織女星を貼って、七夕さまの飾りが出来上がった。出来上がった姿はいっそう美しく、ただ感嘆の他無い。先生たちには絵心があるから、全体の調和もよくとれ、私は嬉しくて、ただ、ありがとうの連発だけであった。

前に置かれた卓子の上の供物には、七色の摺紙を積み重ね、色紙や短冊もいっしょに添えて盆に乗せ、鋏を重しにしてあった。蒔絵の箱には墨も筆も揃えて硯がはいっており、紅白の布も重ねて置かれ、また、ホオズキがたくさん着いている枝もある。その上、西瓜や玉ねぎや茄子や南瓜、薯蕷も揃えて供えられている。私はその一つ一つを見て、その優しい心づくしが嬉しかった。二人のそれぞれの特技を生かし、地上生産の喜びを皆で感謝することの良い機会を、得たことをあらためて感謝した。

「あすのこのお話は、先生がしてちょうだいや、いつも今村先生がして下さっていましたから」「牽牛さあん！　織姫さあん！　と手招きして、今村先生が上手にお話されましたなア!!」「ふうん!!　そうでしたか、こんな美しい七夕さまは、私はじめて見ましたわ、皆さんのおかげですね――しかし今村先生のように上手にできるかしらん!!　これから考えてみんなのご苦労を無にせぬように、お話をしますわ」といって、暫くその前に立って考えた。――見ていると、全く七夕さまの詩の中を、静かに静かに歩いているように思えた。

私が子どもの時近所の友だちといっしょに、思い思いの飾り附けをした手頃の笹を担いで、大きい声を出して、「七夕さん、ホオズキ取ってもだんないか!!　あんまり取ったらもったいない！」と町を歩き廻ったことは楽しかったが、今日この飾り附けをした七夕さんを正面に見ていると、自分は遠く天の川を溯って、星の世界を歩いているような思いがした。笹を持って歌を歌って歩き廻るだけでは、天体への関心はなくただおもしろいだけであったが、心に夢を抱いて、感情を大空まで歩ませるには、この方が適切だと思わずにはおれなかった。

翌日、私はこの前に立って七夕の物語をした。楽しそうに、かつ嬉し気に、また真面目に話した。子どもたちはいっしょうけん

めいに聴き入って、終った時にはにっこり笑って、ああ！と微かに声を出している子や、大きな声を出して、伸び上がって「よかったなア」と、向こうの友だちといいあったり、話の好きな子どもらは、「先生、牽牛さんも織姫さんも逢えてよろしおましたなア」と、私の顔を見て喜んでいた。

それから暫く自由に遊びをして、緊張を解したが、子どもらは入れ代わり、立ち代わり七夕の正面に来て、目にはいる物を一一、今日の話と合わせているらしい。また天の川を下の方から見上げて行く子もおり、親笹の大きい網に喫驚している子もいた。皆思い思いの感じを持って楽し気に話し合っていた。

三つの鐘を合図に保育室にはいって、楽しみにしていた舟形に切った西瓜を分けてもらい、食後には昨日各自が飾った小笹ももらって、葡萄棚の下に集まった。皆嬉し気に何かいい合っていたが、一同が揃った時、遊戯室から響いて来た七夕の歌に合わせ、歌いながら笹も振って、幼稚園中を歩き廻って帰途についた。

楽しく美しかった西六幼稚園の七夕祭は、いつまでも忘れられなかったので、愛珠へ転任しても七夕を迎える時にはこの飾り附を例とした。天井の高い広い遊戯室に、調和よく大きく飾ったから、非常に映えて美しく、親笹の間につるした二人の着物も、大形にして模様も替えたから、一層晴やかに見えた。新聞社もよく知っていてこの日には写真班も来て、みんな夕刊に掲載していた。誰の感じも同じらしく、味のある七夕さまだといっていた。

終戦後二回程笹が得られなかったけれど、三回目にはその頃阪急沿線の曾根におられる、西六校長の邸裏の竹藪を思い出したので依頼すると、直ぐ今西先生は親笹二本と、小笹にした枝を二百三十本程見繕って下さったから、貰いに行った秋田校務員の車はいっぱいになり、久し振りに賑やかな七夕遊びができたので嬉しかった。

一、園舎の修改繕を始む

終戦後間もなく、遊戯室や畳の広間の雨漏に気がついたから、直ぐ市役所へ修繕を依頼すると、珍しく早く直してもらえたから、大事に至らなくて良かったと安心した。

その後在籍数は非常に増し、それに伴って関係職員や校務員もふえたので、備品も多くなり、従来の職員室では狭くて納まらないから広間の畳は取除いてここを職員室にし、そして従前の保健室を単独にして、私の事務机も職員室に帰ることにした。

押入の前は一間幅にして窓際まで空け、窓側は三尺空けて、鍵形の通路にし、その他は全部八寸の高さを持つ板の間にして、身体検査が一気に出来るようにした。以前ここに置いた薬品戸棚

や、押入を利用して据えた寝台はそのままにして、養護員用の事務机を一個入れ足したから、ここで事務も取れるようになり、全く新設せられたような感じがした。

以前からたびたび園舎の修理や改繕の計画を立て、役所へ陳情していたから、八月の休暇にはいると、市役所の第二建築課長以下五人が来園され、園舎全部の視察を受けた。私は一行が帰られると直ぐ、施設課へ行って課長に会い、修理改繕方を一層強く依頼したのである。そしてその四日程の後、係員が一人来園せられ園舎図と修理個所とを、一々詳細に照合して帰られたので、実現の運びはほぼ確定したようなものと思って嬉しかった。

子どもらの大好きな砂場は、本園のは底無しであったから、清浄な砂を入れても、幾許も経ぬ間に黒くなり、かつ砂が少なくなるので、これを改造して夏は別の個所へ移し、ここをプールにする計画を立てていたが、戦時中のこと故できなかったけれども、先日ＰＴＡ総会の時、この話をして改繕を希望した時、全会員がこれに賛成して下され、費用も全部ＰＴＡが持って下さることになったので、早速施設課に行って許可をもらい、職員室の前に広さ三十坪を取り、ひさしまで届く高さの組立式の日覆を作り、この下に二十五坪の広さで地上一尺五寸の高さの桟を二本ずつ打込み、これに板を挾ませて周囲を作り、この中に砂場の砂を、職員も幼児も校務員も手に合った量を持って、何回にも運び（幼児の回数は自由）全部空いてから工事にかかることにした。この作業は今後毎年七月の上旬として、プール遊びは中旬の中頃から、八月の開放の間まで実施することとした。

また六人の工夫が仕事をはじめ、深く掘って行くうちに砂場の北側にかなり大きい土管が通っていることが分ったため、プールの底に高さ七寸、幅二尺の上げ底をずっと作らねばならなくなり、その上プールの西北隅に、保育室からの雨水を流す土管との会所があったので、これを守るために底が少々複雑になったが、予定の通り深さ四尺、幅六尺、長さ五間には間違いはなかった。土管があったため、却って変化ができてよかったと思った。プールの中で腰掛が出来、両足でバタバタさせるおもしろ味もあった。工夫の親分は「セメントが乾燥したら、美しい砂を入れますわ、トラック二台分ははいります。これだけできていたら、砂の汚れも大分違いますで」と、いったから嬉しく思った。

この園舎が竣工されて約五十年、流石に彼方此方に痛みを見せて、修改繕の計画も立てられ、既に補修や改繕のできた個所もあるが、現代教育の場として、無駄なく有効的に完成させるために、この方面の研究もせねばならぬと思った。

（元愛珠幼稚園）

幼稚園創立法の目次

幼稚園創立法目次

緒言

開園ノ原由

始末ノ畧傳

保育ノ功用

園制ノ傳播

設立方法

屋宇ノ結構

園庭ノ景況

什具ノ排置

幼稚園創立法の関信三による添書

コノ一編ハ更ニ特殊目的アリ故意ニ標シテ外ニシテ園ヲ善道幼稚園ノ設立法ヲ指示スルミノ外ハ頃日木村氏ノ餘儀ナキ要需ニ因リ更ニ彼写ロレノ以ツ之ヲ應ズルノミ

明治十年一月

關信三自識

愛珠幼稚園

幼稚園創立法の末文

一使丁　金三圓已上

已上使丁ノ給料合計金十二圓ナリ

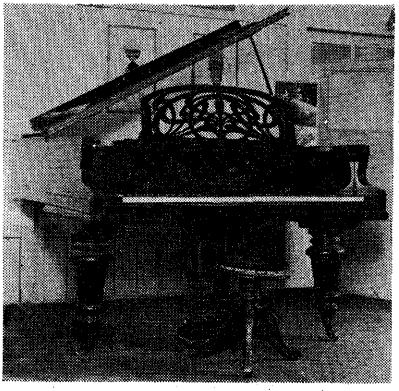
頃日不肖ハ忝ク文部大輔田中不二麿閣下ノ内諭ヲ奉シ此編ヲ起稿スルヤ啓ニ才拙ニ識淺ク恐懼文至ノ路ヲ罷場ニ背カンコトヲ是從ニ然レトモ曾テ幼稚園記錄譯ノ功アリ且ツ再来東京女子師範學校附屬幼稚園ニ從事スルヲ以テ本論ヲ起シ如キ多ク其ノ經驗ヲ

所以ヲ今ノ世ニ傳ヘ以テ之ヲ上進スルノ微ヲ有ス

東京女子師範學校附屬幼稚園監事

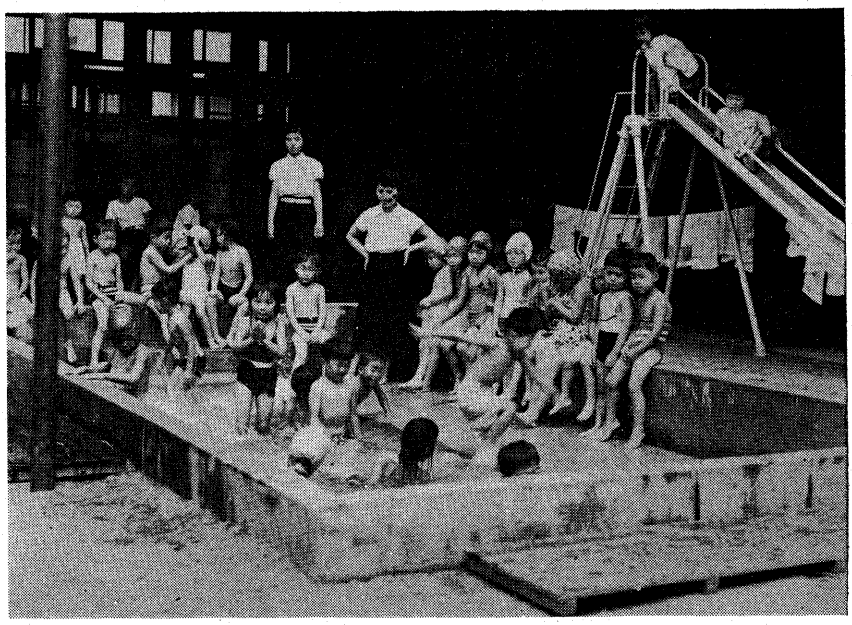
明治十一年四月　關信三

ピアノ
明治16年外国領事館より買う。
当時大阪では最初のもの



ヘファナン女史の講演会

幼稚園の想い出の遊び・三月のひなまつり

幼稚園の想い出の遊び・七月の七夕まつり

幼稚園の想い出の遊び・プールで水遊び